



特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

第 14 回通常総会議案書

2019年3月9日(土)13時～14時30分

於)NSビル 203号室(東京都千代田区神田猿樂町 2-2-3)

総会議事

1. 総会成立の確認
2. 総会開会挨拶
3. 議長選出
4. 書記、議事録署名人の選任
5. 報告事項
6. 審議事項
 - 第一号議案 2018年度事業報告
 - 第二号議案 2018年度決算報告
 - 第三号議案 2019年度事業計画
 - 第四号議案 2019年度予算
 - 第五号議案 役員改選
7. 行事
 - 活動紹介
8. 議長解任
9. 総会閉会挨拶

■第一号議案 2018年度事業報告

1、事業実施の報告	3
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	4
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	7
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	7
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	8
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	8

■第二号議案 2018年度決算報告

活動計算書	10
貸借対照表	12
財産目録	13
注記	14
2018年度監査報告書	16

■第三号議案 2019年度事業計画

1、事業実施の方針	18
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	18
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	18
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	18
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	18
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	19

■第四号議案 2019年度予算

■第五号議案 役員改選

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

2018年度 事業報告書

1、事業実施の報告

2018年度は新年当初から、森友学園問題、加計学園問題に伴う様々な問題が噴出し、内閣支持率が低下するなど、緊張感のあるスタートを切った。安倍政権とメディアの問題が浮上する中、OurPlanet-TVの国会記者会館屋上裁判をモチーフにした二兎社の「ザ・空気～誰も口にしてはならぬ」が全国で公演されるといった出来事もあった。日本的な記者クラブの問題を、笑いを交えながら、鮮やかな切り口で戯曲化した本作品は、マスメディアでも大きく取り上げられたが、OurPlanet-TVがモデルであることを宣伝する機会がなかったことは悔やまれた。

報道では、他の媒体は自粛傾向にある福島県の甲状腺検査をめぐる、複数のスクープ記事を配信したほか、伊達市の住民の被ばく線量を解析した「宮崎・早野論文」問題についても、他のメディアに先駆けて報道。東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う被ばくの問題が、OurPlanet-TVの大きな強みになっている。

このほか、築地の移転問題や五輪で独自色のある報道を継続しているほか、沖縄県が辺野古新基地建設の同意撤回を表明した7月以降は、沖縄に拠点を置く「森の映画社」と提携し、本土では報道されにくい沖縄の様々な動きを動画で配信し、静かな反響を呼んでいる。特に、工事の様子を至近から捉えたドローン映像などは、他では視聴できない貴重な内容で、テレビ局などからの問い合わせも相次いでいる。

ワークショップでは、これまでの3ヶ月コースは年1回に減らし、夏と秋の2回、3日間の集中コースを開設。人気を博している。とくに夏のコースは全国各地からの参加もあり、幅広い層が意欲的に、映像づくりに励んでいる。

最後に、財政面だが、2018年度は昨年度に引き続き、2年連続の赤字決算となった。助成金の獲得や映像の受託制作がふるわなかったことが大きな原因と言える。一方、新規入会や寄付は増えており、キャンペーンなどの成果も出ている。認定NPOとなってから3年目を迎えるが、非営利の独立メディアとして、財政的な安定化をはかれるよう、引き続き努力していきたい。

代表理事 白石 草

- (1) 会員数 2019年1月末日現在
正会員 24名 / 賛助会員 個人 236名(新規19名) / 団体 1
- (2) 従業員の状況
*フルタイムスタッフ3名
- (3) 活動の拠点
*東京事務所

2、事業実施に関する事項

—コンテンツに制作に係る事業—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作

独自企画番組の制作および配信

2018年度は、前年度を30本ほど上回る112本の番組・記事を配信した。もっとも多く取り上げたのは、東京電力福島原発事故に関連するもので、44本(5本減)だった。2013年から通っている南相馬市小高中学校を舞台にしたショートドキュメンタリーを3年ぶりに制作、配信した。

このほか、2020年に向けて、五輪関連が21本(6本増)と増加。また、「森の映画社」からの配信により、沖縄の新基地建設等に関するものが11本と大幅に増えた。このほか、#Metoo 運動の影響もあり、ジェンダー関連が各6本、築地移転問題が4本、難民問題と労働問題が各3本、渋谷の再開発と野宿者排除をテーマにしたものが2本となった。



【事業内容】

映像作品 (ContAct/NewsClips/Documentary)

配信番組は計112番組

◆ CONTACT 2本

4月 2日 『6年目の小高中学校～群青を歌い継ぐ』

11月20日 『「誰もがヒーロー」知的障害者にカメラを向ける』

◆ NEWS 110本

1月 9日 『「命ある木を切らないで」～中野の自然公園、工事着工』

1月10日 『小泉首相ら「原発ゼロ法案」～次期国会提出めざし与野党へ呼びかけ』

1月12日 『甲状腺検査めぐり海外の専門家交え議論』

1月16日 『横浜最大「ホタル生息地」の再開発計画が決定』

1月17日 『中野の自然公園、木の伐採工事始まる～五輪に向けスポーツ公園化』

1月20日 『被曝線量の目安「毎時0.23」を検証へ～放射線審議会』

1月22日 『都内初の「ミサイル避難訓練」に抗議の声』

1月25日 『ノーベル平和賞、サーロー節子さんスピーチ動画(日本語訳)』

1月25日 『甲状腺検査の見直し検討本格化～学校健診打ち切りへ』

2月 4日 『新潟県で福島原発事故の健康影響の検証本格化』

2月 9日 『追加の証拠提出～福島原発事故公判・東京地裁』

2月13日 『報道されない五輪「負の側面」～練馬でシンポ』

2月14日 『「米軍ヘリ、保育園の上飛ばないで」保護者ら要望』

2月23日 『市民団体が平昌五輪視察「環境破壊に人権侵害、日本と同じ問題」』

2月28日 『東京五輪のマスコット「近未来キャラ」に決定』

3月 1日 『環境省・水俣病認定の通知見直さず～被害者との交渉で』

3月 1日 『福島・甲状腺がん196人～「学校検診見直し」検討へ』

3月 9日 『「渋谷区のホームレス排除は人権侵害」～第二東京弁護士会が勧告』

3月12日 『福島・甲状腺検査4巡目の検査目的見直しへ～県が答弁』

3月12日 『官邸前で怒号「安倍辞めろ！」～森友文書改ざん』

3月14日 『東京五輪で強制退去は人権侵害～ホームレスが都など提訴』

3月14日 『京都地裁、福島県外の避難者に賠償大きく』

3月16日 『東京地裁も「国の責任」認める～自主避難者の賠償も増額』

3月23日 『新潟水俣病 2審も賠償認めず～東京高裁』
3月28日 『誠実な対応求め、原発訴訟原告が東電に申し入れ』
4月16日 『「モニタリングポストを撤去しないで」福島県民が規制庁に申し入れ』
4月18日 『牛久入管で収容者が集団ハンスト、長期収容に抗議』
4月20日 『「セクハラゆるすな！」財務省前で市民が怒号』
4月23日 『「#With You」セクハラ被害者に黒服で連帯示す』
4月24日 『東京五輪の大会運営について懸念～IOC や国際競技連盟』
4月26日 『「辺野古の工事止めろ」官邸前で抗議～工事開始から1年』
4月27日 『「原発事故に伴う健康管理の法律」～国会議員ら議論』
5月 2日 『「長期収容止めろ」東京入管前で抗議』
5月 7日 『「セクハラを許さない」財務省前で麻生大臣発言に抗議』
5月11日 『新国立競技場、最難関の屋根工事が本格化』
5月14日 『「公園のホテル化反対」市民ら申し入れ』
5月14日 『女性ジャーナリストが結集～麻生財務相に申し入れ』
5月18日 『「高プロ」は「過労死促進制度」～国会前で抗議』
5月18日 『加害者には警察も～メディア業界のセクハラ実態』
5月18日 『急増する香りの被害、国会で初の訴え』
5月22日 『「高プロは過労死を促進」～遺族が官邸前に座り込み』
5月23日 『【アーカイブ】エネルギー基本計画 署名合同提出・院内集会』
5月25日 『診療情報を3年放置～福島県・甲状腺検査サポート事業』
5月29日 『「長期収容やめろ」牛久入管に1万7000筆の署名提出』
5月31日 『五輪のマラソンコース公表～名所重視、暑さは考慮せず』
6月18日 『「モニタリングポスト撤去しないで」福島の母親ら知事に申し入れ』
6月18日 『甲状腺がん悪性または疑い200人超え～福島県が公表』
6月25日 『30年待たずに資金枯渇も～福島「県民健康調査」』
6月27日 『東京・葛飾区で初の甲状腺検診～市民グループ』
6月28日 『新宿区、デモのできる公園1つに～「表現の自由」揺るがすと反発』
7月 3日 『甲状腺検査サポート事業、見直しへ～県議会で答弁』
7月 6日 『「7人同時の死刑ありえない」～人権団体が抗議会見』
7月 9日 『集計漏れ11人～福島県の甲状腺がん209人へ』
7月12日 『「復興五輪全面に」聖火リレー決定』
7月18日 『建設進む五輪競技場～スタンドは気温40度の暑さ』
7月20日 『五輪日程が決定～帰宅難民の恐れも』
7月22日 『「灼熱地獄だ東京五輪」五輪返上訴えて市民らデモ行進』
7月25日 『森会長「暑さも神の思し召し」～東京五輪2年式典で』
7月26日 『オウム元幹部6人死刑執行～1月で13人目』
7月26日 『「休眠預金」の運用めぐり、NPO が緊急集会』
7月30日 『LGBT 差別発言で杉田議員に抗議～自民党前に5000人』
8月 2日 『東京五輪お台場のトライアスロンコース発表～水質が課題』
8月 3日 『新たな誤集計が発覚～甲状腺がん手術症例にミス』
8月 7日 『五輪で初の顔認証システム導入～30万人が対象』
8月 9日 『記述を見直しへ～復興庁「放射線のホント」』
8月 9日 『【辺野古は今】埋め立てめぐり県と国が攻防』
8月10日 『「公有地の大安売りだ」渋谷区を提訴～宮下公園再開発』
8月15日 『【辺野古は今】遺志継ぎ「基地建設阻止」～県民大会』
8月16日 『【夏休み企画】カラハン君ありがとう～中学生の作ったラジオ番組』
8月17日 『【辺野古は今】「基地をつくらせない」防衛省前でも抗議』
8月27日 『甲状腺検査をめぐり住民監査請求～福島県』
8月28日 『「放射線のホント」間違った記載ない～復興大臣』
8月29日 『トリチウム水の海洋放出をめぐる公聴会』
8月30日 『五輪名目で「テロ対策見本市」～市民ら抗議』
9月 4日 『甲状腺がん集計外含め211人～福島県』

9月 6日 『海外メディア向けに「復興五輪」をPR』
 9月10日 『人権団体が政府に勧告受け入れ要求』
 9月11日 『「脱原発テント」設置から8年目、経産省前で抗議』
 10月2日 『小児甲状腺がん患者らへの医療費助成～要件緩和へ』
 10月2日 『五輪選手村「1400億円も値引き」と市民ら批判』
 10月3日 『農水省に移転延期勧告を要請～築地市場関係者』
 10月6日 『「残念。やりきれない」～築地閉場に女将さんたち』
 10月11日 『豊洲市場が開場～2年延期も課題山積』
 10月12日 『南相馬の患者データ～裁判で証拠提出へ』
 10月16日 『津波対策先送り「心外」～東電・武藤元副社長』
 10月17日 『東電元副社長の証言に「無責任」～被災者ら苛立ち』
 10月26日 『被曝量と甲状腺がんの関係を検討へ～福島県』
 10月31日 『五輪中、都心は大渋滞の恐れ～交通影響地図公表』
 11月 5日 『「辺野古の工事再開は許さない」防衛省に申し入れ』
 11月 7日 『健康影響に関する原発事故の検証、再開～新潟県』
 11月15日 『「お客さんが減った」豊洲市場、開場1ヶ月』
 11月21日 『収容された外国人の人権侵害生々しく～支援者が講演』
 11月22日 『「反五輪トーチ」日本に到着～環境破壊など問題視』
 11月26日 『「小児甲状腺がん診療ガイドライン」来秋に公表へ』
 11月27日 『「外国人の人権守れ」法改正に反対する労働組合が集会』
 11月28日 『東電、原発PR館を「廃炉資料館」へ』
 12月 5日 『ブラック企業大賞～財務省など9社をノミネート』
 12月 6日 『個人線量データの不正提供か～福島県伊達市』
 12月 6日 『東京五輪は「ブラックボランティア」～都内で勉強会』
 12月10日 『研究申請前に解析結果を公表～伊達市の被ばくデータ』
 12月12日 『個人線量計で被ばく管理～帰還困難区域の帰還に向け』
 12月13日 『ヨウ素剤の事前配布見直しへ～原子力規制委』
 12月13日 『辺野古「土砂投入をやめろ！」官邸前で抗議』
 12月14日 『小児甲状腺がん少なくとも272人～福島サポート事業で判明』
 12月14日 『政府が工事強行、辺野古の海に土砂投入』
 12月17日 『聖火台は臨海副部「夢の大橋」～五輪組織委』
 12月20日 『辺野古「土砂投入を中止して」NGOが共同会見』
 12月20日 『「土砂搬送やめて」市民ら要請～辺野古埋め立て』
 12月25日 『高江での工事再開に抗議～米軍ヘリパッド建設』
 12月26日 『混迷する福島の甲状腺検査～専門家が2時間半議論』

福島映像祭2018

第6回目となる「福島映像祭」を9月22日～28日の1週間、ポレポレ東中野にて行った。今回は、避難解除が進み、様々な支援策が打ち切られる中、揺れる避難者の姿を追った作品をはじめ、映像作品4本、トークイベント3つ、写真展の計8つのプログラムを企画した。

【福島映像祭2018概要】

<映画上映>

映画プログラムは、ドキュメンタリー映画4作品を上映。1週間でのべ420人以上の方にご来場いただき、初日は立ち見も出るなど、盛況となった。上映作品の内2つは震災当時、高校生だった若手監督によるもので、今年は若手制作者による発信が目立った。

- ◆『たゆたいながら』 監督:阿部周一(2017年/75分/日本)
- ◆『モルゲン、明日』 監督:坂田雅子(2018年/71分/日本)
- ◆『ふたつの故郷を生きる』 監督:中川あゆみ(2018年/70分/日本)
- ◆『かえりみち』 監督:大浦美蘭(2017年/48分/日本)

<イベント>

毎年恒例の企画に加え、今回は避難が解除された地域の現在に焦点を当てたトークも企画した。とくに反響があったのは、市民部門で上映した「ナミエフリーズ」。福島県浪江町の記憶を保存しようと活動する「浪江の記憶を守る会」が町民の参加者を募って記録したライフストーリー集で、震災以前からの町の記憶を思い起させる映像の力強さを感じた。

- ◆市民部門上映&トーク「わたしが伝える福島」 参加者:30人
ゲスト:金沢朱莉、米田博、佐々木加奈子 コメンテーター:下村健一
- ◆上映&トーク「福島中央テレビの現場から」 参加者:69人
ゲスト:佐藤崇(福島中央テレビ) 聞き手:七沢潔(NHK放送文化研究所)
- ◆上映&トーク「避難解除地域のリアル」 参加者:71人
ゲスト:吉田千亜(フリーライター)



ふくしまのこえ

福島映像祭「市民部門」での上映作品を中心に、ビデオを掲載した。作品募集に課題が残った。

DVD販売

販売数は昨年よりはふるわなかったが、図書館・大学等への委託販売は、件数は少ないものの現在も毎月注文が入っている。

- ・「チェルノブイリ28年目の子どもたち」(2,000円)販売枚数 2枚
- ・「チェルノブイリ28年目の子どもたち2」(2,000円)販売枚数 9枚
- ・「チェルノブイリ28年目の子どもたち2本セット」(5,000円)販売枚数 14枚
- ・「飯舘村 わたしの記録」(一般3,240円/ライブラリ21,600円)販売枚数 9枚

自主上映

「東電テレビ会議 49時間の記録」の上映会が5月に東京都小金井市で開催された。

(2) 人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

映像コンテンツの翻訳 2018年度は対象となる事業は行わなかった。

—市民の情報発信(パブリック・アクセス)に係る事業—

(3) 子ども・市民のための映像制作教育

映像ワークショップ

【事業内容】

3ヶ月コースを春に、3日間集中コースを夏と秋に開催した。例年、秋は3ヶ月コースを実施していたが、3日間集中コースのニーズが高まり変更した。春は、学生や若者の参加が中心。夏と秋の集中コースは、普段忙しい30代から40代が中心で、愛知や茨城、千葉など遠方からも参加した。

年間の参加者は、昨年よりも5人増えて19人。女性の参加が倍増して15人となった。例年通り、参加者の年齢層は20代から60代まで幅広く、大学生から会社員、NGO職員、カフェ経営者、ライター、教員など多様な顔ぶれとなっている。春と秋の集客に課題があるため、宣伝方法などを工夫して集客に繋げる。

【実施実績】

◆入門編

【3ヶ月コース】

春期映像制作ワークショップ:4月～7月 受講者数:6人
完成作品:「くるくるひろば」「野鳥の病院」

【3日間集中コース】

夏期映像制作ワークショップ:7月 受講者数:8人
完成作品:「歩く速さで、ANDANTEとともに」
「世界にひとつだけのスポーツ店」

秋期映像制作ワークショップ:11月 受講者数:5人
「鞆一筋 レオマカラズヤ」「本が主役じゃない古書店」

(4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び 交流の場の提供及び環境づくり

メディアセンター

【事業内容】

引き続き日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA)、アジアプレス、NPO法人独立映画鍋がメディアカフェの常駐利用会員となっており、安定した収入源となっている。2月と6月に「映像ワークショップ作品上映会」を開催し、映像制作者の交流などを行った。WS卒業生への機材貸し出しがあったものの、頻度は少なく、ウェブサイトを改善することなどで利用者増を目指したい。



アドボカシーおよびキャンペーン活動

【事業内容】

2018年度は、言論の自由に関する問題で、特筆するようなキャンペーンは展開できなかった。とはいえ、OurPlanet-TVの国会記者会館屋上裁判をモチーフにした二兎社の「ザ・空気～誰も口にしてはならぬ」の公演にあたり観劇ツアーを実施。20人以上がツアー観劇を楽しんだ後、懇親会で交流をはかった。同作品は、日本的な記者クラブの問題を、笑いを交えながら、鮮やかな切り口で戯曲化した作品で、マスメディアにも大きく取り上げられた。

(5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】

2019年度は、委託制作を強化すべく、新たなパンフレットを作成。企業に対しても、社会貢献的な取り組みをPRする映像制作を受託すべく取り組みを行った。その結果、一社ではあるが新たなクライアントを開拓。この映像をテコに、次につなげていきたい。

NGO・NPOを対象とした受託映像は振るわなかった。来年度は、認定NPO団体などを対象に、マーケティングや営業活動を展開していくことが必要と言える。

- ◆ 株式会社文星閣(70周年ビデオ制作)
- ◆ 城南信用金庫
(よい仕事おこしフェア中継/講演会ライブ中継/ソーラシェアリングシンポジウム記録・配信)
- ◆ 東電刑事裁判支援団(東電刑事裁判公判ビデオ制作)
- ◆ 人権擁護大会実行委員会(シンポジウム上映ビデオ制作)

広報セミナー

【事業内容】

NPO法が成立して20年が経つが、NPOの発信力は今も低迷し、新自由主義的・競争的な価値観がメディアに浸透している。こうした状況を改善するために、NPOのための広報セミナーを3年ぶりに復活。津田大介さん、下村健一さん、竹信三恵子さんという三人の外部講師をお招きし、2日にわたって広報セミナーを企画した。内容的にとっても充実したものとなり、受講生の満足度も高かった。本講座は岩波ブックレットとして刊行される予定である。



組織

ファンドレイジング

今年はニュースレターを年2回(4月、11月)に発行し、会員への活動報告を強化した。ファンドレイジングキャンペーンは福島映像祭の賛同・協賛募集(8月)、年末キャンペーン(11~12月)計2つを実施。昨年よりは寄付総額は少し減少したが寄付者数は増加した。今年は初めて相続財産の寄付もあった。助成金は10件申請したものの、採択されたのは3件となり総額110万円となった。

- ◆ 新規入会者名 19人(賛助会員個人)
- ◆ 寄付総額 440万円以上 / 寄付者 368人以上
 - 2万~5万円未満 26人
 - 5万~10万円未満 10人
 - 10万円以上 10人(内1名は新規寄付者、8名は2年以上継続寄付者、1名は相続寄付)

【助成金実績】

- ・ ザ・ボディショップ・ニッポン基金(南相馬市小高中学の子どもたちとの映像記録) 30万円
- ・ パルスシステム東京市民活動助成基金(福島映像祭) 50万円
- ・ アクトビヨンドトラスト(福島県民健康調査ウォッチ) 30万円

スタッフ体制

昨年に引き続きフルタイムスタッフは3人体制となった。インターンは社会人インターンを2名、ドイツからの留学生1名を受け入れた。

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

自 2018年1月1日
至 2018年12月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費	160,000	
賛助会員受取会費	2,110,000	2,270,000

【受取寄付金】

受取寄付金		4,406,781
-------	--	-----------

【受取助成金等】

受取助成金		1,100,000
-------	--	-----------

【事業収益】

メディア支援事業収益		9,641,999
------------	--	-----------

【その他収益】

受取 利息	7,814	
雑 収 益	283,490	291,304

経常収益 計

17,710,084

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業)	7,645,665	
法定福利費(事業)	1,125,999	
通 勤 費(事業)	263,660	
福利厚生費(事業)	124,293	
人件費計	9,159,617	

(その他経費)

売上 原価	121,913	
外注費 (事業)	347,200	
諸 謝 金	254,000	
印刷製本費(事業)	115,425	
会 議 費(事業)	49,278	
旅費交通費(事業)	960,565	
通信運搬費(事業)	514,309	
消耗品費(事業)	99,196	
機材費 (事業)	483,132	
修 繕 費(事業)	97,200	
資料費(事業)	43,892	
水道光熱費(事業)	268,134	
WEB 構築費	131,280	
地代 家賃(事業)	1,693,824	
会場費(事業)	368,080	
広告宣伝費	20,019	
リース料	18,360	
保 険 料(事業)	14,520	
諸 会 費(事業)	800	
租税 公課(事業)	3,000	
支払手数料(事業)	1,080	

映画上映料	129,800		
雑 費(事業)	24,300		
その他経費計	<u>5,759,307</u>		
事業費 計		14,918,924	
【管理費】			
(人件費)			
給料 手当	1,911,417		
法定福利費	281,499		
通 勤 費	127,020		
福利厚生費	5,337		
人件費計	<u>2,325,273</u>		
(その他経費)			
印刷製本費	107,904		
支払 報酬	115,560		
会 議 費	4,463		
旅費交通費	11,176		
通信運搬費	269,729		
消耗品 費	104,388		
水道光熱費	67,031		
地代 家賃	483,456		
接待交際費	21,460		
諸 会 費	146,672		
租税 公課	356,200		
支払手数料	114,817		
会場費	24,600		
雑 費	1,386		
その他経費計	<u>1,828,842</u>		
管理費 計		4,154,115	
経常費用 計			19,073,039
当期経常増減額			<u>△ 1,362,955</u>
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			<u>△ 1,362,955</u>
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			<u>△ 1,432,955</u>
前期繰越正味財産額			10,001,746
次期繰越正味財産額			<u><u>8,568,791</u></u>

貸借対照表

特定非営利活動法人Our Planet - TV
全事業所

[税込] (単位:円)
2018年12月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預り金	244,848
現金	10,040	未払法人税等	70,000
小口現金	2,472	未払消費税等	355,000
ドル現金	34,965	流動負債合計	669,848
普通預金	7,863,542	負債合計	669,848
ペイパル	141,308	正味財産の部	
現金・預金計	8,052,327	前期繰越正味財産	10,001,746
(売上債権)		当期正味財産増減額	△ 1,432,955
未収金	18,500	正味財産合計	8,568,791
売上債権計	18,500		
(棚卸資産)			
商品	75,812		
棚卸資産計	75,812		
流動資産合計	8,146,639		
【固定資産】			
(投資その他の資産)			
敷金	1,092,000		
投資その他の資産計	1,092,000		
固定資産合計	1,092,000		
資産合計	9,238,639	負債及び正味財産合計	9,238,639

財産目録

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV
全事業所

[税込] (単位：円)
2018年12月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金ほか)

現金	10,040	
小口現金	2,472	
ドル現金	34,965	
普通預金	7,863,542	
東京三菱UFJ 神保町	(3,513,976)	
東京三菱UFJ 春日町	(20)	
東京三菱UFJ 卜冨口	(902)	
郵便貯金総合	(3,089,107)	
三菱特別プロジェクト口	(0)	
城南信用金庫九段下	(163,697)	
郵便振替	(1,095,840)	
定期預金	0	
ペイパル	141,308	
現金・預金計	8,052,327	
未収入金 (DVD 販売代金)	18,500	
商品 (DVD 及び書籍)	75,812	
流動資産合計		8,146,639

【固定資産】

(投資その他の資産)

保証金	1,092,000	
投資その他の資産計	1,092,000	
固定資産合計		1,092,000
資産の部合計		9,238,639

《負債の部》

【流動負債】

預り金	244,848	
報酬源泉	(10,925)	
健康・介護	(59,305)	
給与源泉所得	(74,420)	
厚生年金	(100,198)	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	355,000	
流動負債計		669,848
負債の部合計		669,848
正味財産		8,568,791

2018年度（平成30年）

計算書類の注記

特定非営利活動法人OurPlanet-TV

1. 重要な会計方針
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。
- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は主として最終仕入原価法によっています。
- (2) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況
 別紙参照

3. 用途等が制約された寄附金等の内訳
 用途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。
 当法人の正味財産は8,568,791円ですが、そのうち用途が特定された寄附金等はありません。
 したがって用途が制約されていない正味財産は8,568,791円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
受取寄附金	0	403,000	403,000	0	福島映像祭
アクトビヨンドトラスト助成金	0	300,000	300,000	0	福島県民健康調査関連取材
ボディショップ助成金	0	300,000	300,000	0	南相馬市小中高・子どもの記録
バルシステム助成金	0	500,000	500,000	0	福島映像祭
合計	0	1,503,000	1,503,000	0	

4. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
投資その他の資産						
保証金	1,092,000	0	0	1,092,000	0	1,092,000
合計	1,092,000	0	0	1,092,000	0	1,092,000

注記2. 別紙							
事業別損益の状況							
(単位：円)							
科目	番組制作情報提供事業	メディア教育支援事業	社会貢献メディア支援事業	事業部門計	管理部門	合計	
I 経常収益							
1. 受取会費	1,055,000	422,000	211,000	1,688,000	582,000	2,270,000	
2. 受取寄附金	2,606,391	881,356	440,678	3,928,425	478,356	4,406,781	
3. 受取助成金等	1,100,000			1,100,000		1,100,000	
4. 事業収益	1,823,979	2,293,560	5,524,460	9,641,999		9,641,999	
5. その他収益	256,632		108	256,740	34,564	291,304	
経常収益計	6,842,002	3,596,916	6,176,246	16,615,164	1,094,920	17,710,084	
II 経常費用							
(1) 人件費							
給料手当	3,822,833	1,911,416	1,911,416	7,645,665	1,911,417	9,557,082	
法定福利費	562,999	281,500	281,500	1,125,999	281,499	1,407,498	
通勤費	131,830	131,830		263,660	127,020	390,680	
福利厚生費		105,229	19,064	124,293	5,337	129,630	
人件費計	4,517,662	2,429,975	2,211,980	9,159,617	2,325,273	11,484,890	
(2) その他経費							
売上 原価	117,766	4,147		121,913	0	121,913	
外注費	21,600	21,600	304,000	347,200		347,200	
諸謝金	117,000	67,000	70,000	254,000		254,000	
印刷製本費	71,025	7,780	36,620	115,425	107,904	223,329	
支払報酬				0	115,560	115,560	
会議費	35,512	606	13,160	49,278	4,463	53,741	
旅費交通費	930,788	5,500	24,277	960,565	11,176	971,741	
通信費	384,709	0	129,600	514,309	269,729	784,038	
消耗品費	71,615	22,039	5,542	99,196	104,388	203,584	
機材費	483,132			483,132		483,132	
修繕費	97,200			97,200		97,200	
資料費	24,992		18,900	43,892		43,892	
水道光熱費	134,066	67,034	67,034	268,134	67,031	335,165	
WEB構築費	88,600		42,680	131,280		131,280	
地代家賃	846,912	423,456	423,456	1,693,824	483,456	2,177,280	
接待交際費				0	21,460	21,460	
会場費	368,080			368,080	24,600	392,680	
広告宣伝費	20,019			20,019		20,019	
リース料			18,360	18,360		18,360	
保険料	14,520			14,520		14,520	
諸会費	800			800	146,672	147,472	
租税公課	2,400		600	3,000	356,200	359,200	
支払手数料	1,080			1,080	114,817	115,897	
映画上映料	129,800			129,800		129,800	
雑費	13,500	10,800		24,300	1,386	25,686	
その他経費計	3,975,116	629,962	1,154,229	5,759,307	1,828,842	7,588,149	
経常費用計	8,492,778	3,059,937	3,366,209	14,918,924	4,154,115	19,073,039	
当期経常増減額	-1,650,776	536,979	2,810,037	1,696,240	-3,059,195	-1,362,955	

監査報告書

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

代表理事 白石 草 様

私は、第14期2018年1月1日から2018年12月31日までの監査を行ない、次のとおり報告する。

1、監査の方法の概要

会計監査について、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を監査した。(監査実施日2019年2月4日13:30~15:00)
業務監査については2018年2月24日(土)に開催されたトークライブ「息子が甲状腺がんと診断されて～福島いま」に参加した。

2、監査意見

(1) 活動計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。

(2) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

2019年2月4日

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

監 事

早坂 毅 

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV
2019年度 事業計画

1、事業実施の方針

東京五輪開催前年となる2019年は、五輪を盛り上げるキャンペーン報道が賑やかになるとともに、天皇の退位即位や選挙、消費税増税などのビッグイベントが相次ぐ。こうした中、東京電力福島原発事故を過去の出来事とする雰囲気が強まったり、春以降、急増するとみられる外国人労働者の人権が蹂躪されたりといった、負の社会課題が拡大する恐れがある。さらに今年は、憲法改正に向けた国民投票がされる可能性も高まっており、メディアとして、これまでにない緊張感に包まれることが予想される。

こうした中においても、OurPlanet-TV は初心と高い志を大切に、「自分たちにやれること」を淡々と取り組んでいきたい。

財政面では本年度、新たなクレジット決済の導入、会員管理システムの導入などに取り組み、事業の効率化やファンドレイジングの効率化などを図っていく。これまで、視聴者やメルマガ購読者などに止まっていた方々に財政的な支援をいただけるよう、寄付を支払いやすい様々なメニューを提供し、運営の底上げをしていきたい。さらに、現在課題となっている WEB サイトのリニューアルについても、具体的なスケジュールや予算、内容を固められるよう、準備を行っていきたい。

なお、組織の推進力を高めていくために、理事会の開催頻度を高め、組織経営に対する役員の間与を高めるとともに、ボランティアを含めた間与者を増やしていく。

最後に、今日本では、「報道の自由」「メディアの独立」が非常に危機的な状況にある。組織内外を問わず、同じような志を持つジャーナリストとより強い関係を構築し、きちんと権力監視ができるよう、また人々にインパクトのある情報や映像を提供できるよう、力を入れていきたい。

代表理事 白石 草

2、事業実施に関する事項

—コンテンツに制作—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作

独自企画番組の制作および配信

2019年は、いよいよ五輪イヤー前年となる。これまで、十分な独自取材ができていないが、緻密な調査報道や映像の記録など、外部のジャーナリストやクリエイターとも協力して取り組みたい。また、五輪の影で、終わりにされようとしている福島原発事故の問題も、引き続き、精力的に取材していく。現在の取材態勢には限界面が出ているため、制作のあり方についても見直しを検討したい。

福島映像祭・ふくしまのこえ

年月が経つことで変化していく「福島のいま」を映し出す映像作品を取り上げていきたい。とくに「市民部門」は募集時期を早め、長めに設定することで、幅広い層にリーチできよう働きかける。「ふくしまのこえ」も同様に、募集の呼びかけを強化し、掘りおこしを積極的に行う。

DVD販売・自主上映

在庫を抱えているDVD「チェルノブイリ 28年目の子どもたち」「飯舘村 わたしの記録」についてはセールを行うなどして販売を拡げていく。「東電テレビ会議」の自主上映に関しては、関連する団体・グループ向けに個別に案内をする。

人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

映像コンテンツの翻訳

「東電テレビ会議～49時間の記録」英訳版(100分版)の海外上映を何らかの形で実施していく。

映画紹介

ここ数年更新が滞っていたが、今年は毎月1作品を目標にウェブサイト、メールマガジン、ニュースレター等で紹介していく。ドキュメンタリー映画に限らず、多様な視点を持つインディペンデント作品も取り上げたい。

—市民の情報発信(パブリック・アクセス)に係る事業—

(3) 子ども・市民のための映像制作教育

映像ワークショップ

【事業内容】

引き続き集客に課題が残る入門コースについて、過去の受講生のアンケートや新たな傾向を分析し、宣伝方法を改善する。新たなに「子ども向け YouTube セミナー」を開催するほか、映像ワークショップ作品上映会を開催する。

【実施期間】

- ・4月～7月 春の3ヶ月コース
- ・5月 映像ワークショップ上映会
- ・7月 夏の3日間集中コース
- ・8月 夏休み 子ども向け YouTube セミナー
- ・11月 秋の3日間集中コース

(4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

メディアカフェ

【事業内容】 引き続き事務局スペースのデスクを貸し出すサービスを実施。「日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA)」「アジアプレス」「NPO法人独立映画鍋」の3団体が入居する。定期的にミニ上映会「1コイン

サロン」などを企画しワークショップ卒業生や、ドキュメンタリー愛好家が集える場をつくり、スペース利用の拡大や機材レンタル、ワークショップの集客に繋げる。

【実施時期】1月～12月随時

アドボカシー活動

【事業内容】 政権によるメディアへの介入が強まるなか、メディアの更なる萎縮が懸念される。あらゆる言論表現規制などに関する問題提起を行うとともに、国連から勧告のあった「放送行政の独立化」に関して、キャンペーンを展開し、メディアの民主化につながるよう取り組む。

【実施時期】1月～12月随時

(5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

社会貢献支援事業は、ライブ配信やウェブ構築など、新たな分野を広げていきたい。

映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】 大手のNPOやNGOなどに積極的に営業をかけ、利益率の高い受託映像制作の案件を増やすべく取り組む。その際、クラウドファンディングによるビデオを活用したキャンペーンの立て方や遺贈ビデオの制作など、それぞれの団体(クライアント)の寄付向上などに寄与するようなプログラムを開発し提案を行っていく。

【実施時期】1月～12月随時

講師派遣

【事業内容】 希望に応じて、映像ワークショップや広報セミナーの講師派遣または運営・実施を行う。

【実施時期】随時

広報セミナー・広報サポート

【事業内容】 前年度に引き続き、「広報セミナー」を開催する。メディア戦略のたて方、プレスリリース作成、SNS の活用について講座を組み立てる。なお、6月頃にはブックレットも発売となるので、集客に資する告知を展開する。

【実施時期】6月・10月

—組織運営に関する事項—

組織・体制

常勤スタッフ3名に加え、必要に応じてスタッフを配置する。またインターンを積極的に受け入れる。

ファンドレイジング

会員管理データベースシステム(Salesforce)、新たなクレジット決済システム(Syncable)を導入する。4月末には運用を開始し、ファンドレイジングの効率化を図りたい。キャンペーンは年に3回実施し、会員・寄付者の拡大を目指す。会員向けニュースレターは4月、11月に発行する。助成金も随時申請していく。

【実施時期】

3月 クレジット決済 Syncable 運用開始と同時に 《マンスリーサポーター募集》

7月 福島映像祭 《賛同・協賛募集》

11月 年末寄付キャンペーン 《寄付・会員募集》

活 動 予 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

自 2019年 1月 1日 至 2019年 12月 31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員 年会費	230,000
賛助会員 年会費	3,000,000

【受取寄付金】

一般寄附	4,000,000
------	-----------

【受取助成金等】

助成金	2,000,000
-----	-----------

会費・寄付・助成金 収益 計	9,230,000
----------------	-----------

【事業収益】

番組制作情報提供	1,800,000
メディア教育支援	2,500,000
社会貢献メディア支援	7,000,000

事業収益 計	11,300,000
--------	------------

【その他収益】

受取 利息	-
-------	---

雑 収 益	-
-------	---

その他収益 計	0
---------	---

経常収益 計	20,530,000
---------------	-------------------

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給与 手当	8,000,000
法定福利費	1,200,000
通勤費 (事業)	260,000
福利厚生費 (事業)	30,000

人件費 計	9,490,000
-------	-----------

(その他経費)

外注費 (事業)	500,000
謝礼金	100,000
印刷経費 (事業)	150,000
会議費 (事業)	150,000
旅費交通費 (事業)	1,300,000
通信運搬費 (事業)	500,000
消耗品費 (事業)	100,000
水道光熱費	320,000
地代 家賃	1,760,000
機材費 (事業)	500,000
修繕費 (事業)	100,000
資料費 (事業)	50,000
WEB構築費	150,000
会場費 (事業)	500,000
広告宣伝費	50,000
リース料	20,000
映画上映料	150,000

ワークショップ講師料	100,000	
仕入	100,000	
事業費 計		<u>16,090,000</u>
【管理費】		
(人件費)		
給与	2,000,000	
法定福利費	300,000	
通勤費	130,000	
福利厚生費	20,000	
人件費 計		<u>2,450,000</u>
(その他経費)		
印刷 経費	120,000	
支払 報酬	150,000	
会 議 費	30,000	
旅費交通費	50,000	
通信運搬費	250,000	
消耗品 費	100,000	
水道光熱費	80,000	
地代 家賃	440,000	
接待 交際費	20,000	
諸会費	150,000	
租税 公課	100,000	
データベース システム導入	300,000	
支払手数料	150,000	
会場費	50,000	
管理費 計		<u>4,440,000</u>
経常費用 計		<u>20,530,000</u>
当期経常増減額		0

役員改選

- 1、任期満了となる理事ならびに監事の改選を行う。次期役員候補を以下の通り 提案する。
- 2、新任任期は、第14回通常総会終了後より第16回通常総会までとする。
- 3、役員候補案

◆理事候補案（五十音順）

<継 続>

- ・ 池本 桂子（特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 理事）
- ・ 稲熊 伸治（クリエイティブ・ディレクター）
- ・ 大槻 貴宏（ポレポレ東中野代表／トリウッド代表）
- ・ 河崎 健一郎（弁護士／福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク副代表）
- ・ 近藤 剛（映像ディレクター）
- ・ 白石 草（ディレクター／ジャーナリスト）
- ・ 下村 健一（白鷗大学客員教授／時々ジャーナリスト）
- ・ 浜田 忠久（市民コンピュータコミュニケーション研究会代表）
- ・ 松浦 さと子（龍谷大学教授）
- ・ 毛利 嘉孝（東京芸術大学大学院教授）

◆監事候補案

<継 続>

- ・ 早坂 毅（税理士・行政書士）

都心

高尾山薬王院

都内の天

きょう

都区部

府中

八王子

きょうの予想

天気

「福島事故」後 現状映す

東中野」を会場に開かれる。6回目を迎える今回は、事故の風化に危機感を抱く福島出身者の作品を多くそろえた。

(佐藤圭)

東京電力福島第一原発事故後の福島を伝えるドキュメンタリー映画やテレビ映像を集めた「福島映像祭2018」が22～28日、中野区の映画館「ポレポレ



「たゆまないながら」の場面

中野で22日から「映像祭」

主催はインターネット放送局 Our Planet TV(白石章代表)。独自番組をネット

で配信する一方、事故後の福島に関する映像を保存・活用しようと、二〇一三年に専用サイト

県出身者の作品そろえる

「ふくしまのこえ」を開設。それに合わせて映像祭をスタートした。

今回上映されるドキュメンタリー映画は、一七、一八年に制作された四本。「たゆまないながら」は、福島市から自主避難した阿部周一監督が、市内に残った母親らの葛藤を描く。

「かえりみち」は、今も帰還困難区域が残る福島県浪江町出身の大浦美蘭監督が、帰る家を失った家族や友人らにカメラを向ける。

そのほかトークイベントでは、市民による記録映像作品三本、福島中央テレビの特集などが上映される。

白石代表は「事故後七年半が経過し、メディアや映像作家による関連映像は減っているが、逆に、被災地の人たちがつくった作品が目立っている。被災当事者にとって事故は継続している」と話す。映画は当日一般千五百円。イベントは予約・当日とも千五百円。問い合わせはポレポレ東中野 電03(33371)0088へ。